

都内のホテル 改装で高級感

外資に対抗、料金上げ狙う

京王プラザホテルでは本館の高層階にクラブラウンジを新たに設ける（イメージ）



都内の主要ホテルが改装で高級感を高める。東急ホテルズが投資を前倒しするほか、京王プラザホテルは主力ホテルを大幅に改装する。2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて付加価値を高め、料金を引き上げたい考え。外資系の高級ホテルなどに対抗する狙いもある。ただ、既に客室単価の上昇で国内客が敬遠する動きも指摘され、料金引き上げには難しさもある。

東急ホテルズは、主力ホテルの「セルリアンタワー東急ホテル」（渋谷区）の全面改装の完了を当初予定の19年度から1年前倒しし、18年度とする。投資額は11億円強。約410室の客室の家具やじゅうたんなどをより上質なものに入れ替えるほか、高層階にある上級客室専用の「エクゼクティブサロン」の高級化などに取り組んでいる。

東急ホテルズ 完了前倒し 京王プラザ 25億円投資

同社では16年度の設備投資は38億円を計画している。高水準だった15年度を約1割上回る資金を投じる。

京王プラザホテルは東京・新宿にある主力の「京王プラザホテル」で約25億円をかけて本館の高層階を全面的に改装。最上級のクラフフロアとする。12月の完成をめざし、同フロアの宿泊客に限って使えるクラブラウンジも設ける。

藤田観光も「ホテル椿

山荘東京」（文京区）で18年までに順次、客室の改装を進めている。この9月までに畳敷きで和室のスイートルームをお茶をたてられるようにするなどの第3期工事を終える方針だ。

「ここ数年、増勢が続いた訪日客に加え、東京五輪を見据えて」（中長期的に）もう1段階のレベルに料金を引き上げた」（京王プラザホテルの山本護社長）とするホテルは多い。

各社は改装によって付加価値を高め、客室単価の引き上げを狙う。京王プラザホテルが改装する広さ71平方メートルの「プレミアムアクランスイート」の想

訪日客についても伸びの鈍化が指摘されるなか、業界内でも「しばらくは同様のペースで価格引き上げを続けるのは困難」との見方が出ている。

都内ではカナタの高級ホテル、フォーションズ・ホテルズ・アンド・リゾーツが新たなホテルを開く計画が明らかになるなど外資は開発に意欲

的だ。星野リゾート（長野県軽井沢町）も都内で初めてとなる高級旅館を開き、顧客の激しい競争を繰り広げる。競争が激化する中、料金設定のさじ加減は難しい局面に入っている。